

経営近況報告会

株式会社アルメディオ

2026年6月26日

於：たましんRISURUホール 3階小ホール



中期経営計画2026

1. 基本方針
2. 計画の骨子
3. 具体的な施策
4. 計画目標
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現
に向けた対応について

1．基本方針

断熱材事業、ナノマテリアル事業に加え、
第三の事業とすべくCMC（セラミックマト
リックス複合材）のマーケティングを進め、
機能性材料メーカーの確立を図る

2．計画の骨子

各事業の成長により利益の最大化を図り、
ROE8%以上、PBR1倍以上を維持し2倍以上
を目指す

3. 具体的な施策

- (1) 断熱材事業の売上拡大と収益向上
- (2) ナノマテリアル事業の採用獲得と売上拡大
- (3) 新規分野への参入
- (4) M & Aの推進
- (5) 人材の確保

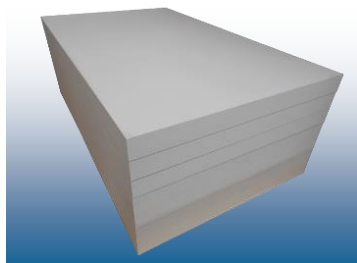
2029年3月期 連結売上高 4,619百万円 連結営業利益 352百万円
2028年3月期 アルメディオ単体営業利益黒字化
結果として、成長レベルに合わせたステークホルダーへの還元を
目標とする

3. 具体的な施策

(1) 断熱材事業の事業領域

断熱材

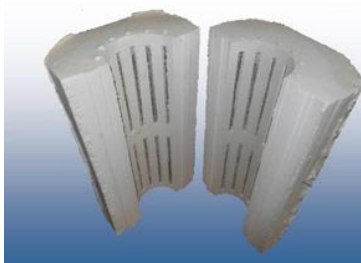
「ボード」



「ブランケット」



「ヒーターモジュール」

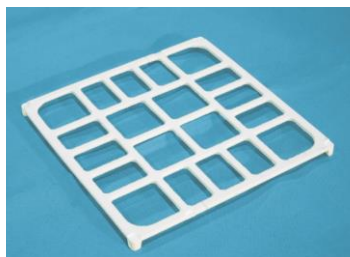


各種電気炉

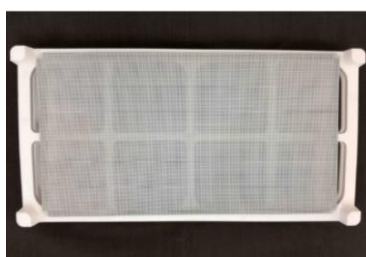


高温窯道具

「MLCC焼成用
セラミックラック」



「プラズマZrO2コート
Niメッシュ」



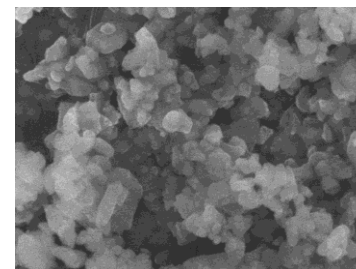
「棚板」



※画像はセラミックラックとの組み合わせ

その他製品

「半導体用アルミナ粒子」



3．具体的な施策

(1) 断熱材事業の売上拡大と収益向上（国内）



第47期 施策

- ①断熱材商品の販売拡大
 - ・鉄鋼メーカーの炉材定期調達先としての地位確立
 - ・新規顧客（鉄鋼メーカー、炉メーカー等）の獲得
- ②建材（耐火）業界に参入
 - ・建材副資材において、不燃材料区分での建築基準法に基づく構造方法等の認定（大臣認定）を取得したことにより、建材業界での販売を開始
- ③販路拡大
 - ・新規商材での他業界参入と商流確立に向けた販売活動
 - ・断熱用途外や設備機器の製品販売

3．具体的な施策

(1) 断熱材事業の売上拡大と収益向上（連結子会社）



第47期

施策

①売上拡大

- ・半導体用アルミナ粒子、SiO等の量産、販売拡大
- ・セラミックラック、プラズマZrO2コートNiメッシュの生産能力の向上と販売拡大

②収益向上

- ・第47期においても損益分岐点を下げる施策に取り組み、中国市場の景気回復速度を注視しつつ、アルセラとアルメテックの集約を推進する
- ・原材料の内製化（アルミナ粒子等）

③開発強化

- ・更なる高付加価値製品の開発・製造
- ・拡大する市場と併せて、過当競争とならない、長期にわたり持続する市場をターゲットとする

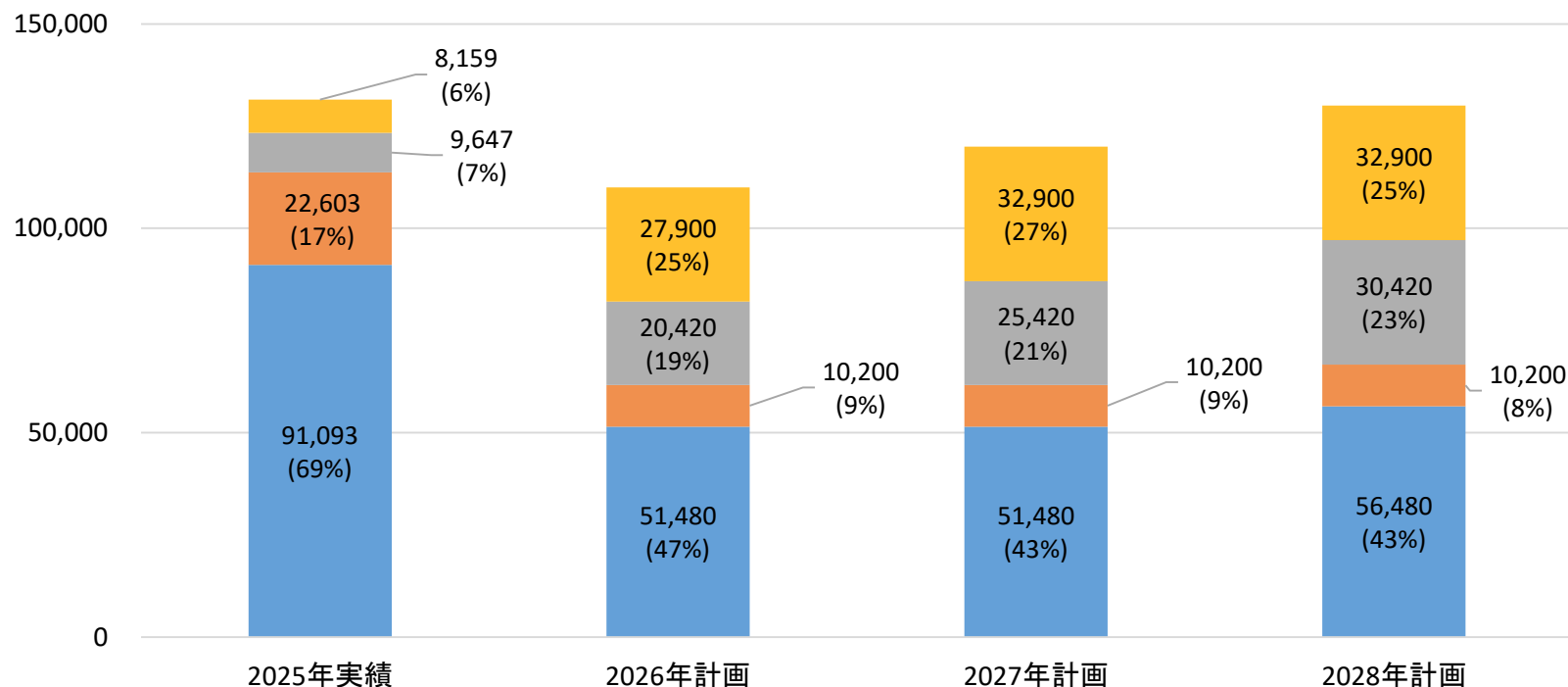
④他社との差異化

- ・顧客からの要望や問題点を検証・分析し、炉の設計や構造の最適化の提案を進める

3. 具体的な施策

(1) 断熱材事業（連結子会社）売上構成

阿爾賽（蘇州）無機材料有限公司、阿爾美（蘇州）科技有限公司の売上構成



※単位：千元

※子会社間取引を含む

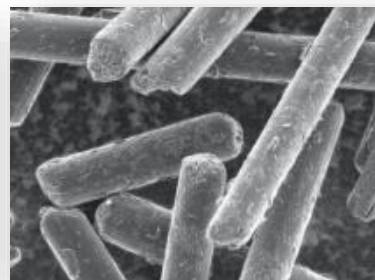
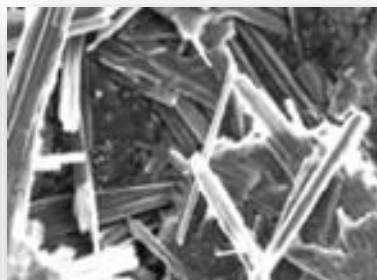
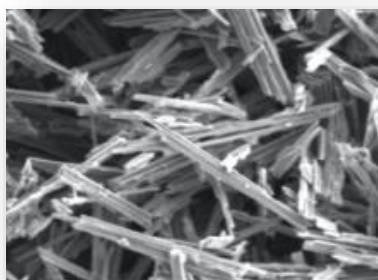
■ 断熱材 ■ 焼成炉 ■ 高温窯道具 ■ SiO・アルミナ粒子他新製品

売上構成比は、断熱材がメインで、高温窯道具、SiOやアルミナ粒子、セラミックラック等の新製品の増加が見込まれ、更に持続できる市場をターゲットにした新製品開発と営業活動を強化し事業成長を図る。

3. 具体的な施策

(2) ナノマテリアル事業の事業構成

カーボンナノファイバー



高純度SiO



ALMETEC生産品

資源・材料販売



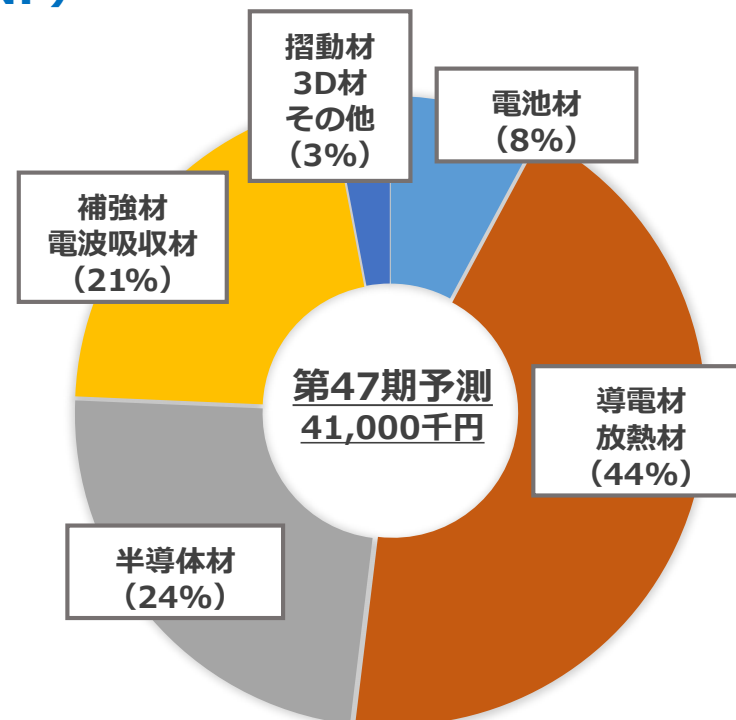
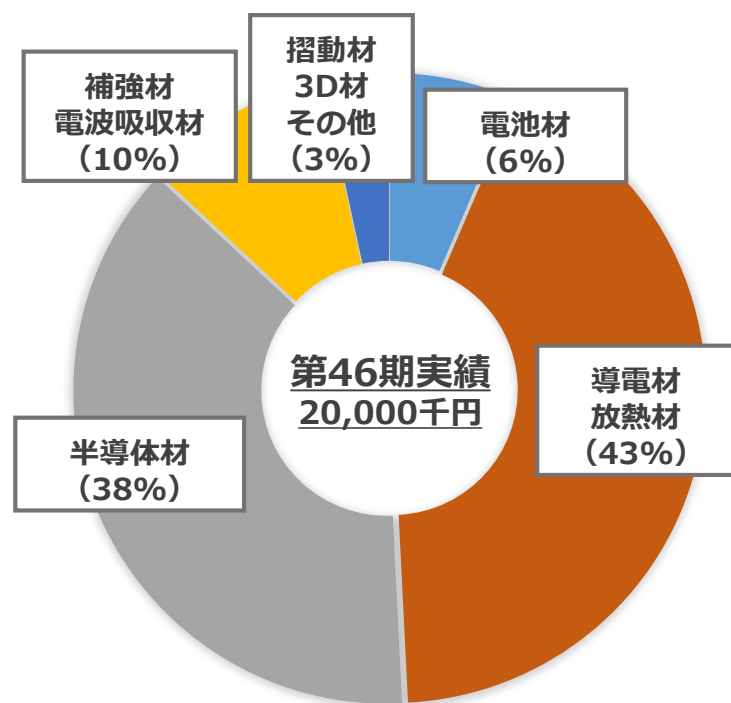
シリコンパウダー



金属シリコン

3. 具体的な施策

(2) ナノマテリアル事業の顧客構成（CNF）

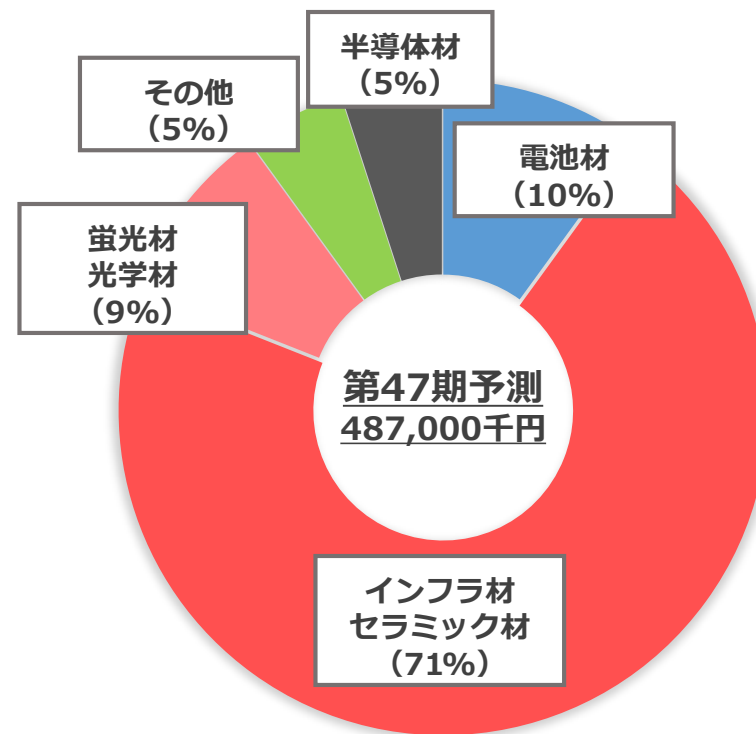
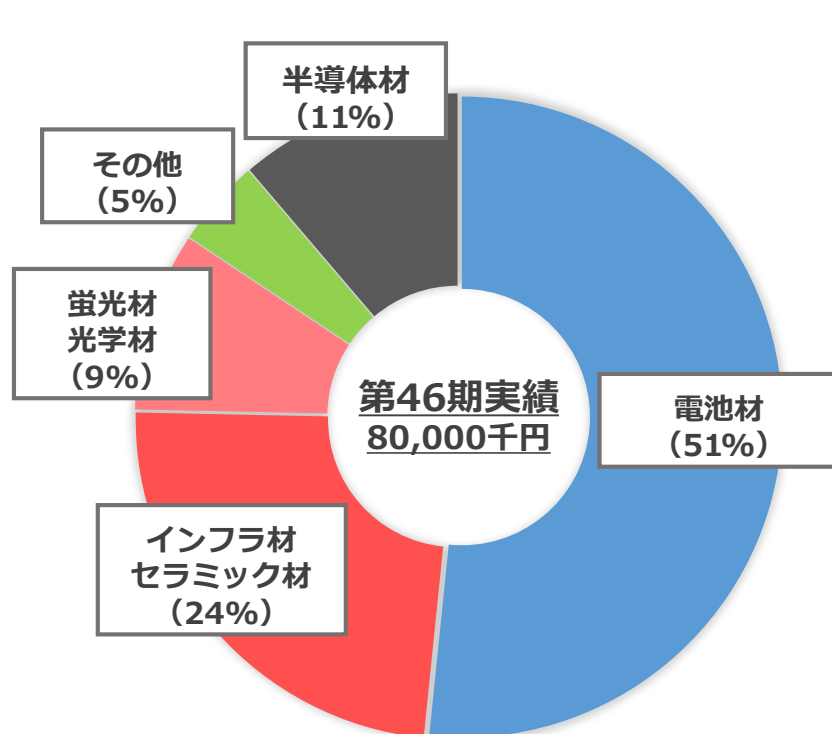


第46期は、半導体材として評価検証用途での引合いが多く伸長した。電池材は予測を下回ったものの、LiB（リチウムイオン電池）及び全固体電池での継続評価は進行中であり高評価を得ている。導電材は塗料、シート等での評価・採用に向け進行している。

第47期は、導電材、半導体材は堅調に推移していくと想定しており、電池材は一部顧客において量産採用に向けた最終評価を展開していく。比較的採用の早い半導体材、導電材での採用に注力する。

3. 具体的な施策

(2) ナノマテリアル事業の顧客構成（資源・材料販売）



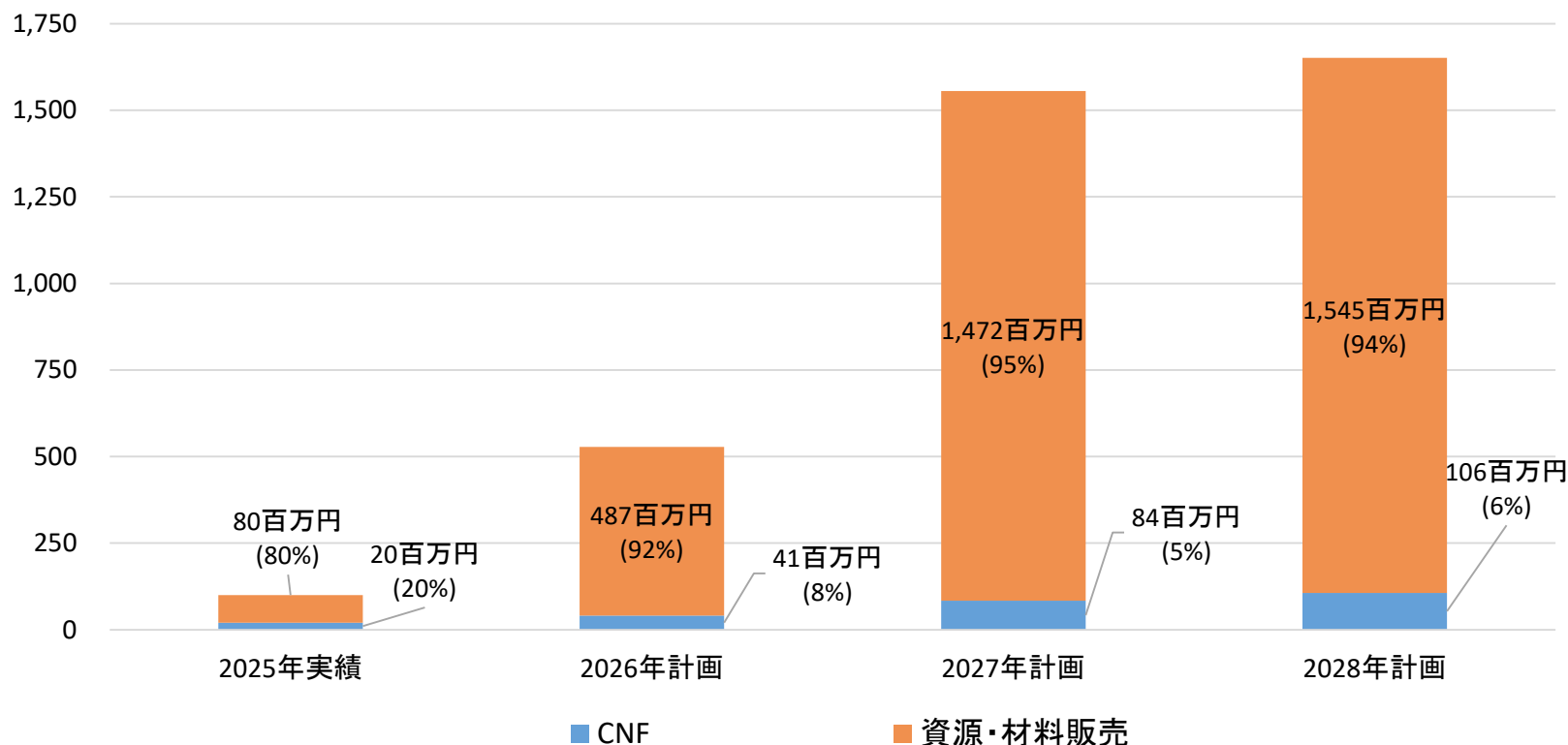
第46期は、資源・材料販売の事業譲受後、各顧客に対しての引継ぎが完了した。受注件数は順調に推移し、第47期は2件の本格採用の内示を受けている。

第47期は、第46期に採用内定したセラミック材の受注・出荷を開始。下期から稼働の見込み。

3. 具体的な施策

(2) ナノマテリアル事業の売上構成

CNF、資源・材料販売の売上構成



CNFは電池材等の採用までの期間が長い案件が多く、CNFの量産採用に至るまでは、資源・材料販売の売上が大きく寄与し、売上構成は資源・材料販売の比率が高くなる。CNFの半導体材・導電材での早期採用、継続評価している電池用途等での採用に向けた動きを加速し、売上拡大を図る。

3. 具体的な施策

(2) ナノマテリアル事業の採用獲得と売上拡大

施策

① 本格採用の道筋が見えてきた顧客への対応力アップ

第46期 ・ 資源・材料販売では受注件数が順調に推移



第47期 ・ CNF及び資源・材料販売の重要顧客のテーマに対して採用獲得
・ 資源・材料販売において下期から2件の本格採用

② 新規顧客の開拓

第46期 ・ 継続案件の採用獲得に向けたサポートを継続
・ アプリケーションに対しても横展開を積極的に推進



第47期 ・ 確実に本格採用を獲得するための顧客対応
・ 新規材料での新規顧客獲得に向けた取り組み

3. 具体的な施策

(2) ナノマテリアル事業の採用獲得と売上拡大

施策

③ 海外展開（顧客獲得に向けたアプローチ）

- 第46期
- ・ siliconに関する欧州REACH規則の登録を完了
 - ・ 韓国及び中国における電池メーカー等でのCNF評価開始



- 第47期
- ・ 欧州向けに出荷開始
 - ・ 海外顧客に対しては継続的にCNF評価及び採用に向け、顧客ニーズへの対応と検証作業を加速

3. 具体的な施策

(2) ナノマテリアル事業の採用獲得と売上拡大

施策

④製品ラインナップの拡充

- 第46期
- ・ 高抵抗CNFは電波吸収材用途で顧客評価中
 - ・ CNF入りPEEKコンパウンドの摺動・補強材用途で販売開始
 - ・ 窒化物等の採用及び納入
 - ・ 資源・材料販売において脱中国材料の開拓を進める



- 第47期
- ・ 超高導電CNFの開発
 - ・ 高分散CNSF（カーボンナノショートファイバー）の適用拡大、顧客評価開始
 - ・ 資源・材料販売において調達先の多角化を進める

⑤品質保証体制の確立

- 第46期
- ・ ISO9001認証に資源・材料関連項目の追加



- 第47期
- ・ ISO9001認証 維持・管理を継続

3. 具体的な施策

(2) ナノマテリアルの応用例（製品ラインナップの拡充）

アルメディオ製品一覧

材料種類	形状	熱伝導率	体積抵抗率
補強用カーボンナノファイバー 型番：ALP-NA1	直径:200~800nm 長さ:1~15μm	100W/mK以上	10 ⁻⁵ Ωm以下
導電用カーボンナノファイバー 型番：ALP-NB1	直径:200~800nm 長さ:1~20μm	500W/mK以上	10 ⁻⁵ Ωm以下
導電用カーボンナノファイバー(高分散) 型番：ALP-NK1	直径:200~800nm 長さ:1~15μm	550W/mK以上	10 ⁻⁵ Ωm以下
高導電用カーボンナノファイバー 型番：ALP-NH1	直径:200~800nm 長さ:1~20μm	900W/mK以上	10 ⁻⁶ Ωm以下
補強用カーボンナノショートファイバー 型番：ALP-SA1	直径:200~800nm 長さ:1~5μm	100W/mK以上	10 ⁻⁵ Ωm以下
導電用カーボンナノショートファイバー 型番：ALP-SK1	直径:200~800nm 長さ:1~5μm	550W/mK以上	10 ⁻⁵ Ωm以下

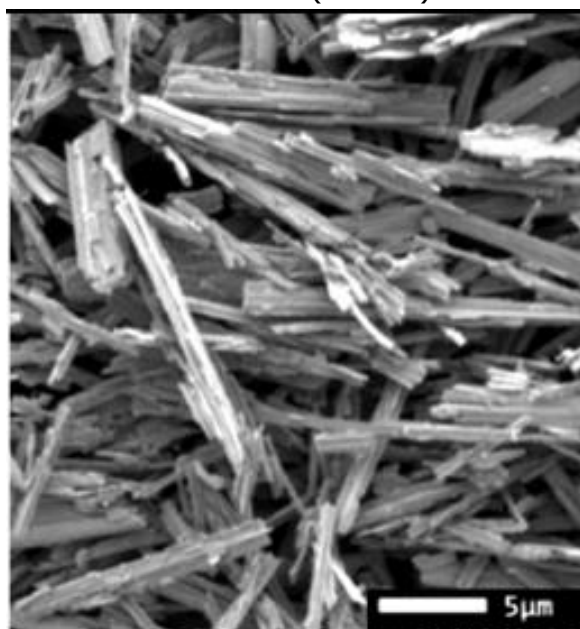
3. 具体的な施策

(2) ナノマテリアルの応用例（製品ラインナップの拡充）

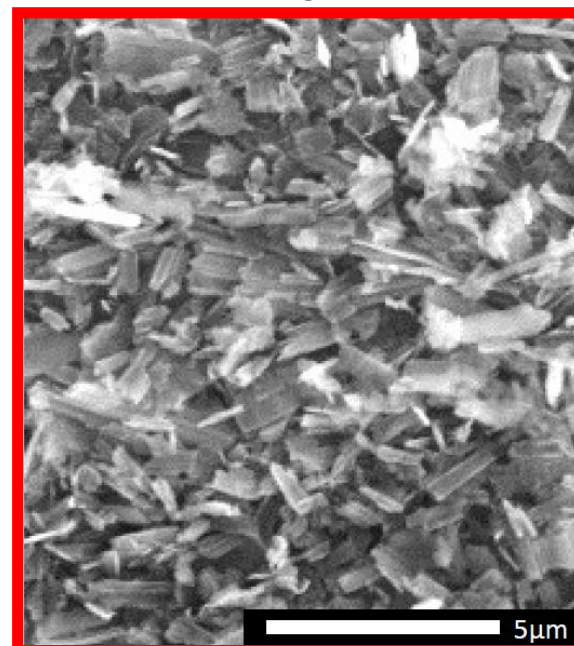
材料種類	形状	熱伝導率	体積抵抗率	分散状態
導電用カーボンナノファイバー(高分散) 型番：ALP-NK1	直径:200~800nm 長さ:1~15μm	550W/mK 以上	10 ⁻⁵ Ωm以下	◎
導電用カーボンナノショートファイバー 型番：ALP-SK1	直径:200~800nm 長さ:1~5μm	550W/mK 以上	同上	◎

電子顕微鏡写真比較

ALP-NK1(高分散)



ALP-SK1



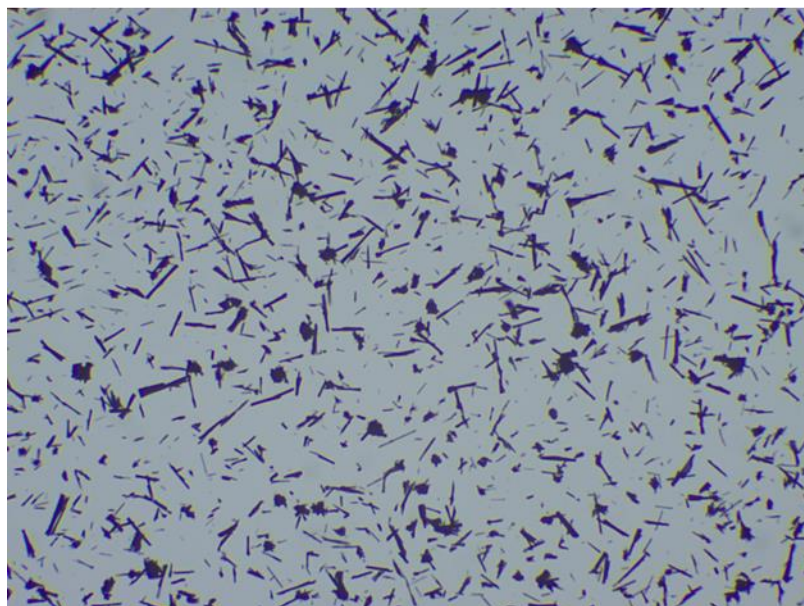
3. 具体的な施策

(2) ナノマテリアルの応用例（製品ラインナップの拡充）昨年度ご報告済

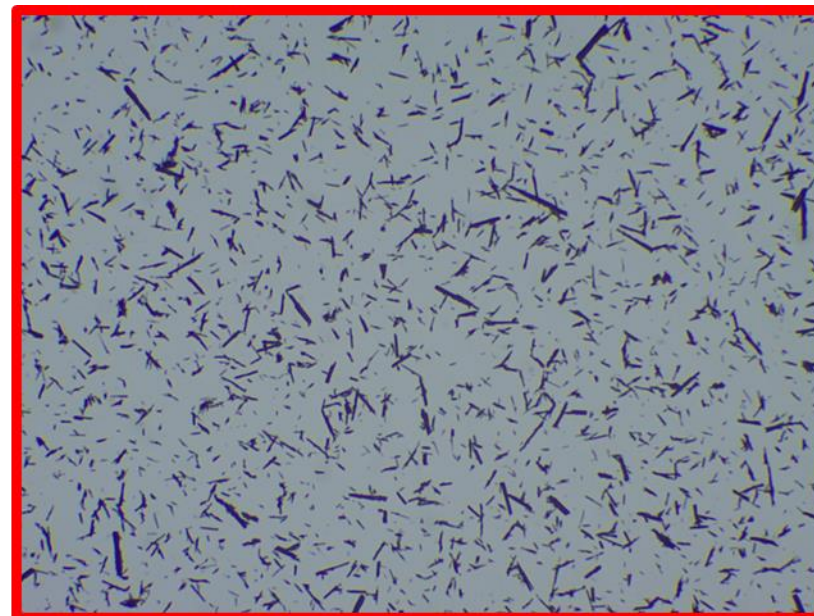
材料種類	形状	熱伝導率	体積抵抗率	分散状態
導電用カーボンナノファイバー 型 番：ALP-NB1	直径:200~800nm 長さ:1~20μm	500W/mK 以上	10 ⁻⁵ Ωm以下	○
導電用カーボンナノファイバー(高分散) 型 番：ALP-NK1	直径:200~800nm 長さ:1~15μm	550W/mK 以上	同上	◎

水分散状態顕微鏡写真比較（少量分散剤添加）

ALP-NB1



ALP-NK1(高分散)



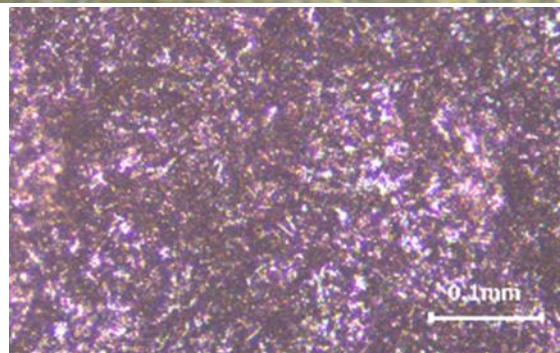
3. 具体的な施策

(2) ナノマテリアルの応用例（塗料）

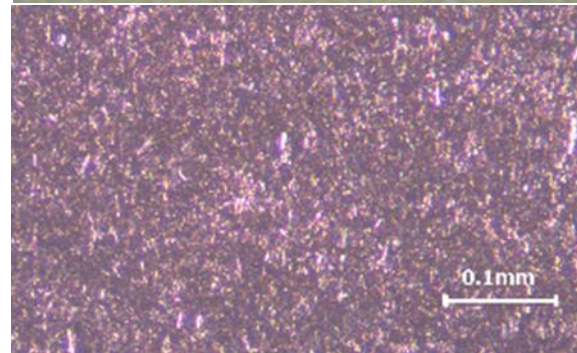
材料種類	形状	熱伝導率	体積抵抗率	分散状態
導電用カーボンナノファイバー 型 番：ALP-NB1	直径:200~800nm 長さ:1~20μm	500W/mK 以上	10 ⁻⁵ Ωm以下	○
導電用カーボンナノファイバー(高分散) 型 番：ALP-NK1	直径:200~800nm 長さ:1~15μm	550W/mK 以上	同上	◎

塗膜写真比較

ALP-NB1



ALP-NK1(高分散)



3．具体的な施策

(2) ナノマテリアルの特許一覧

題名	特許番号	登録日	備考
電導性組成物及び該電導性組成物を含有する成型体若しくは塗膜	特許第7590880号	2024/11/19	CNFに炭素材を添加した、成型体及び塗料
カーボンナノファイバー含有組成物及び該カーボンナノファイバー含有組成物を含有する成型体	特許第7717568号	2025/7/25	CNF高濃度添加した、成型体及び塗料
炭素質物群を含有する固体組成物及び該固体組成物を含有する成型体	特許第7812216号	2026/1/30	CNFとCF短繊維混合した成型体
カーボンナノファイバー群の製造方法及び該製造方法で製造されるカーボンナノファイバー群、並びに、該カーボンナノファイバーを含有する樹脂及びそれを用いた成型体	特許第7851203号	2026/4/16	CNF製造基本特許
複合材料構造体及び複合材料構造体の製造方法	特許第7874818号	2026/6/9	カーボンナノファイバーを含む導電性プライマーを備える複合材料構造体及び複合材料構造体の製造方法

3．具体的な施策

(3) 新規分野への参入

事業企画室 第47期 施策

- ・ CMCのアプリケーション開発を行い、防衛関連産業企業との接触を図り、マーケティングを進める
- ・ サンプル出荷件数増加
- ・ CMC成形品の研究開発体制の構築
- ・ データの蓄積および分析力強化

事業企画室

スタンドオフ防衛ミサイル配備計画とCMC事業化計画

防衛省のスタンドオフ防衛ミサイル配備計画スタートと同時に当社事業化検討もスタート、防衛省側主要開発目標であるロケットモータ（デトネーションエンジン）シーカウインドウ（高耐熱ノーズコーン）にCMCが有力候補となっている

<防衛省開発計画>

赤字: 当社CMC関与分

種別	ミサイル		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
			4 4 期	4 5 期	4 6 期	4 7 期	4 8 期	4 9 期	5 0 期	5 1 期	5 2 期
スタンド オフ防衛 能力	HGV (Hypersonic Gride Vehicle) HCM (Hypersonic Cruise missile)	開発 予算 5 兆 円 初 年 度									
			機体（耐熱材料・機体構造） ロケットモータ・エンジンシステム								
			シーカ・弾頭								
統合防空 ミサイル 防衛能力	GPI (Gride Phase Interseptor) 日本側分担分										
			ロケットモータ・キルビークル（操舵、ロケットモータ・シーカウイ ンドウ）								
極超音速 戦術ミサ イル	1 2 式地对艦ミサイル VLS（潜水艦発射型） 極超音速戦術ミサイル										
			機体（耐熱材料・機体構造） ロケットモータ・シーカ・弾頭								

<アルメディアオ事業化計画>

CMC事業化 主要スケジュール (含む予定)	調査・RD開始	サンプル配布	ノーズコーン基礎試験・実大サンプル試験				初期ロット	量産
プリプレグ関係	展示会出展	他社プリプレグの転売	機体（耐熱材料・機体構造） エンジンシュラウド基礎試験・実大サンプル試験					量試
		自社製造プリプレグの販売						
要員	(-)	1.0	2.0	3.5	3.5	7.0		

事業企画室

スタンドオフ防衛ミサイル開発予算と当社のCMC試験・生産対応

当社が開発中のノーズコーンとエンジンシュラウドは防衛省の予算区分において「スタンド・オフ防衛能力（長射程ミサイル等）」および「技術実証・研究開発（次世代エンジン等）」の予算枠に完全に直結

	西暦 (和暦)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	期	47期	48期	49期	50期	51期
スタンド・オフ防衛（ミサイル） 関連予算		9,733 (億円)	8,500	9,000	10,000	12,000
うち技術開発・実証研究予算（推計）		2,100 (億円)	2,200	2,500	2,800	3,000
ノーズコーン（耐熱、電波特性） 		極超音速誘導弾等の耐熱シールドの実証試験フェーズ	高速滑空弾の試作	試験飛行、試作から量産判定への移行		高速滑空弾の配備開始
プライム・サブプライムの計画と 当社対応		実寸大ノーズコーンでの試験	量産技術の開発	量産品のロット試験	初期ロット量産受注	試射
エンジンシュラウド（耐熱、音響パルス、エロージョン） 		デトネーションエンジン搭載型誘導弾の研究本格化	ノーズコーンより実戦配備は2～3年遅れ見込み		試作から量産判定への移行	次世代デトネーションエンジン等の実用・装備化フェーズ
防衛装備庁の計画と当社対応 （航空装備研究所との共同研究）		基礎的試験	エンジン耐性試験（TP）	エンジンシュラウド製造試験	実物での音響、圧力パルス・エロージョン	

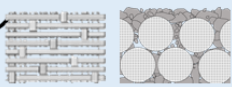
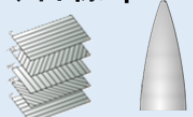
防衛省スタンド・オフ防衛（ミサイル）計画は2023年にスタート

事業企画室

スタンドオフ防衛ミサイルCMCに関する技術開発状況

＜CMC製造技術＞

2026/6

項目	目標性能	技術開発ポイント
プリプレグ製造技術	バッチ式から連続式、高強度化、Vf(繊維含有率)・Void率のコントロール 	補強繊維選択、繊維種類と織り方(コランダム・ムライト、UD/HS)、フィラメント内へのマトリックス分散方法、連続含侵条件とスラリー配合
		マトリックス選択と粒度・粒度分布、マトリックス分散度の向上、粘着樹脂、焼結助剤の選択と配合、Void率と誘電率の関係
CMC積層成形技術	製品形状、寸法精度の向上、目標specの達成 	プリプレグ割り当てとカッティング・中子設計(含む3D-P)
		積層設計(疑似等方、サンドイッチ等)
		真空バッグ・CIPの適用条件、焼成条件(繊維劣化温度、焼結助剤デビトリ化)、加工方法の開発
層間接着	層間強度ILSSの向上	プリプレグ保有水分のコントロール、マトリックスフィルムの開発

＜CMC応用技術＞

項目	目標性能	技術開発ポイント
レドーム 	耐熱性(～3,000℃)、電波透過(損失<1.55dB)広帯域化	高耐熱性マトリックスの適用
		壁厚の調整(λ)、空間インピーダンスの適合、サンドイッチ構造機械加工性の向上
エンジンシュラウド 	高強度化(Void↓)、コア断熱性(Void↑) 熱衝撃性・圧力パルスエロージョン・疲労	配合変更、Void率コントロール(プリプレグ・積層方法改良)
		熱衝撃試験 $\Delta T \cong 700^\circ\text{C}$ 、円筒での内圧パルス試験
		釉の検討、疲労性 10^5 - 10^7 (プルアウト理論: 補強様式)

3. 具体的な施策

(4) M & Aの推進

当社事業の成長に対しシナジー効果が得られる複数の相手先との業務・資本提携を含めた施策の推進

⇒ ・ 当社事業の売上拡大

- ・ 付加価値の創出
- ・ 技術力の強化
- ・ 人材補強
- ・ 資本政策

(5) 人材の確保

営業・技術・コーポレート部門等の専門分野での知見を有する即戦力人材の採用と併せて、DX化推進による業務効率化や従業員が活躍できる環境を整備する

⇒ ・ ナノマテリアル事業の売上拡大

- ・ 事業の拡大と成長に伴う体制強化
- ・ ガバナンス強化
- ・ 後継者の育成
- ・ 全社でのテレワークの推進
- ・ コーポレート部門での定型業務の標準化・自動化

4. 計画目標

① 中期経営計画（連結）

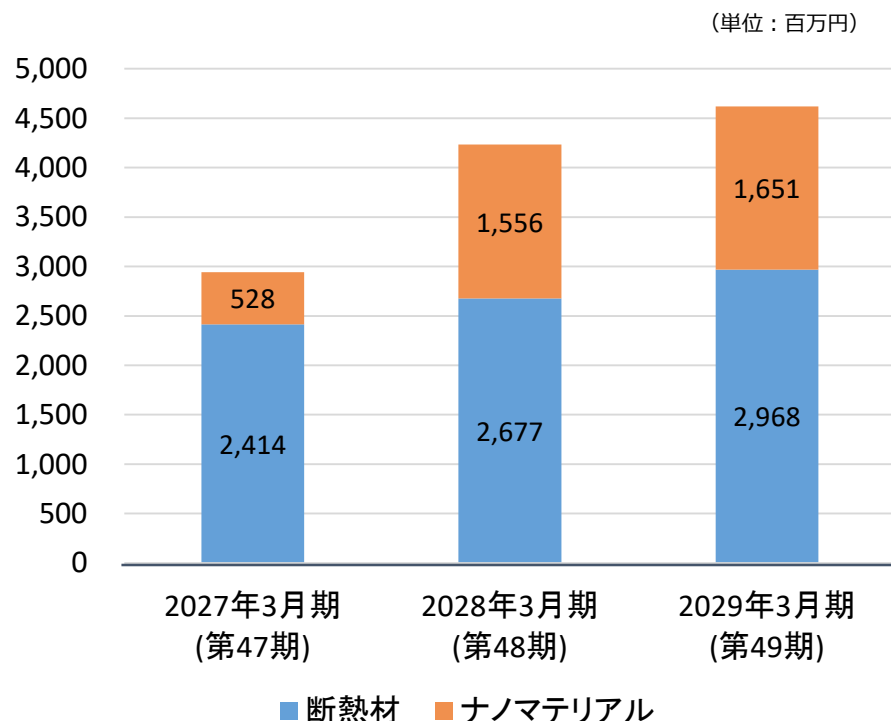
（単位：百万円）

	2027年3月期 (第47期)	2028年3月期 (第48期)	2029年3月期 (第49期)
売上高	2,943	4,233	4,619
営業利益	△163	211	352
営業利益率	△5.6%	5.0%	7.6%
ROA	△1.9%	2.6%	4.3%
ROE	△2.1%	2.7%	4.6%

為替換算レート 1人民元 = 22.4円

4. 計画目標

② 事業別売上計画（連結）



事業別構成比率（連結）

2027年3月期（第47期）

断熱材82.0%、ナノマテリアル18.0%

2028年3月期（第48期）

断熱材63.2%、ナノマテリアル36.8%

2029年3月期（第49期）

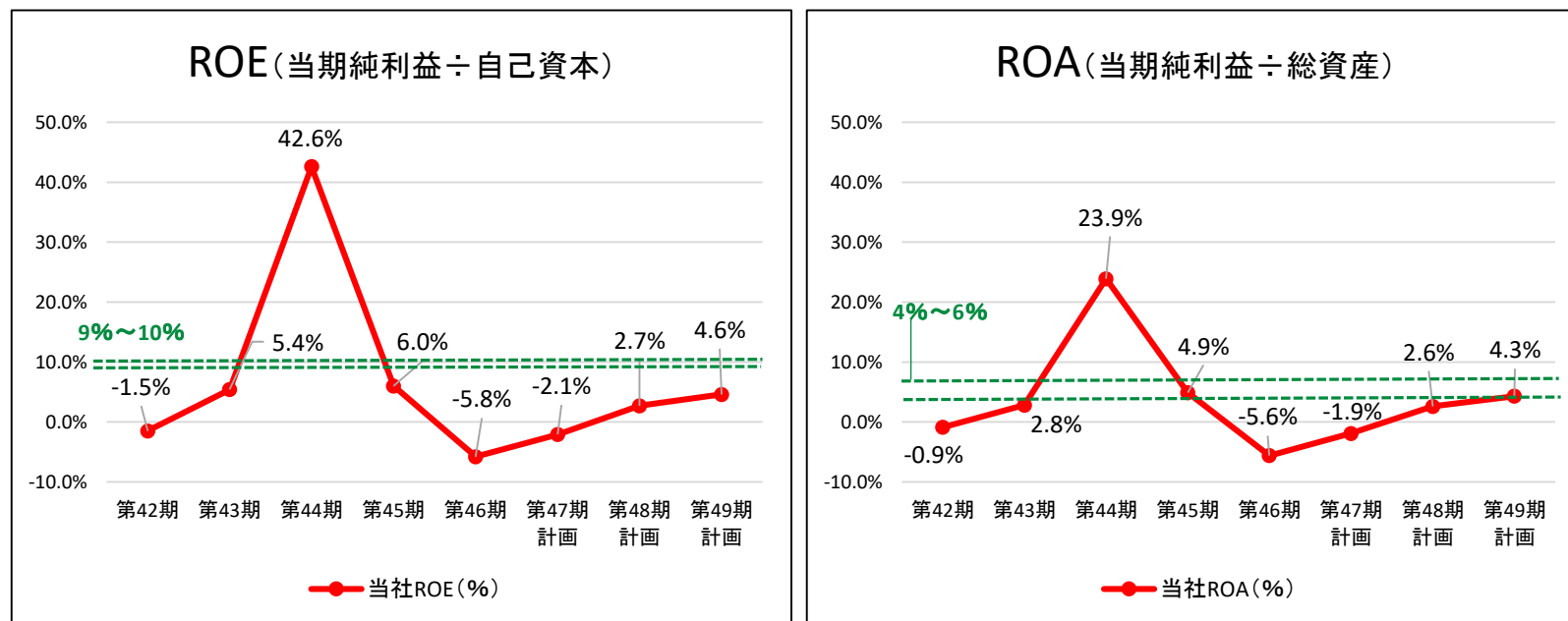
断熱材64.3%、ナノマテリアル35.7%

※当社単体売上对中国子会社の売上比率は、
2028年3月期より当社単体売上が50%を
超える見込み

5. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上の実現のため、「資本コストや株価を意識した経営」に取り組んでいます

① 現状分析（経営指標の分析）

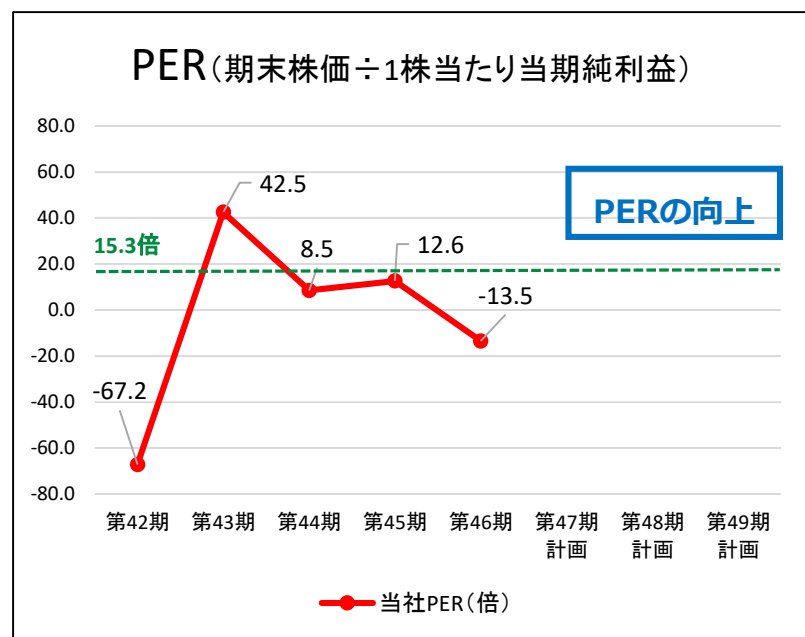
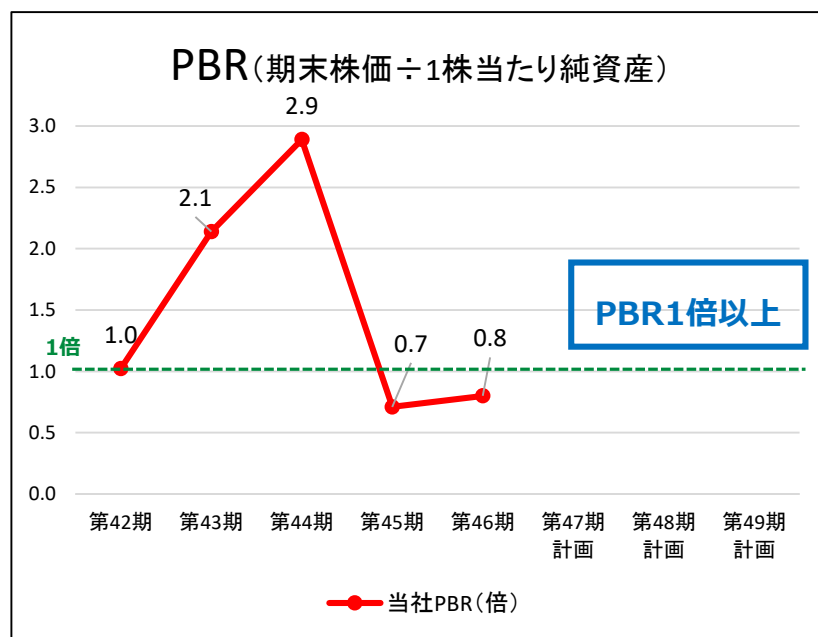


ROE:第44期を除いて全産業のROE水準9%~10%を下回っている

ROA:第44期・45期を除いて全産業のROA水準4%~6%を下回っている

5. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

①現状分析（PBR/PERの分析）

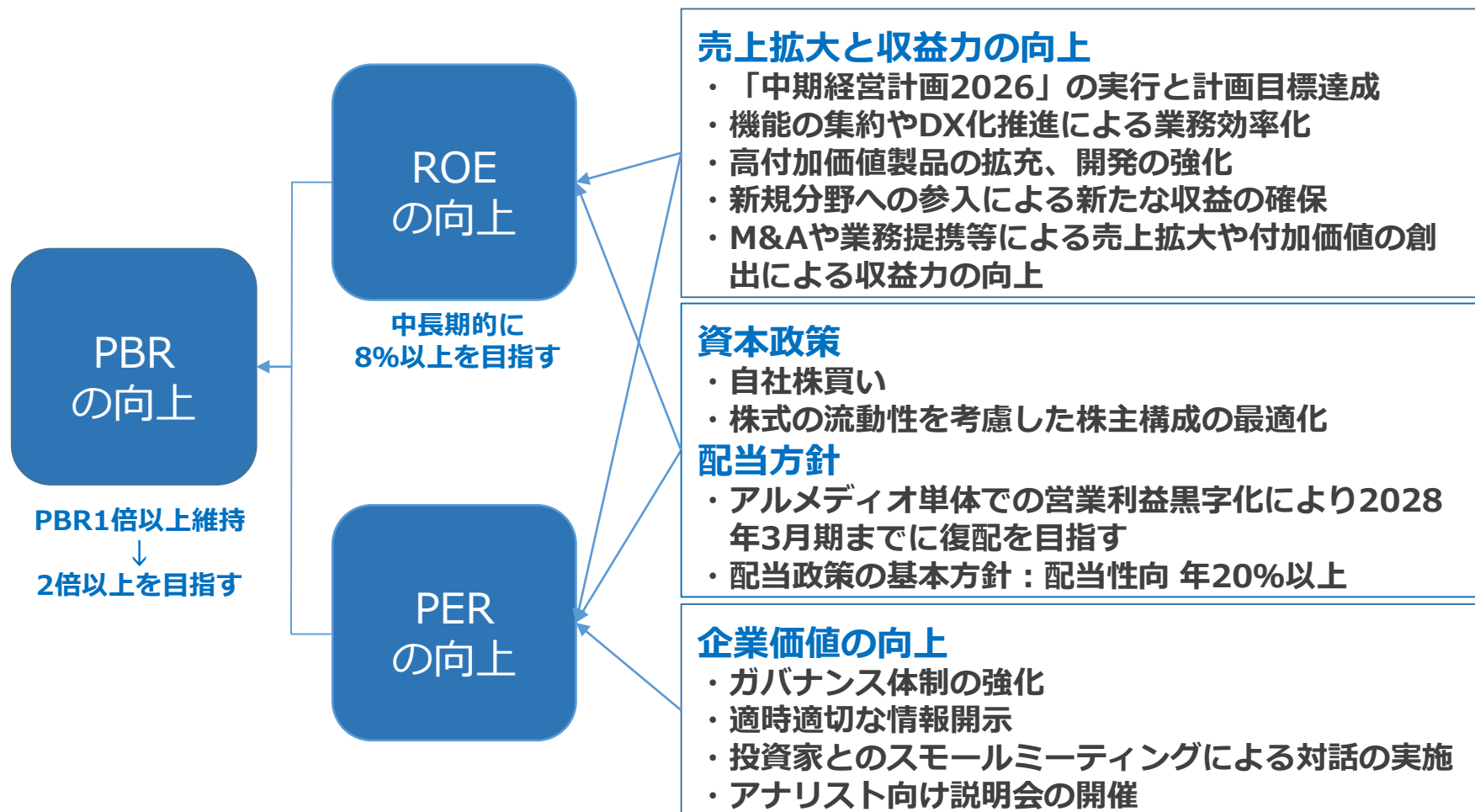


PBR:第44期まで1倍を上回って推移していたが、第45期以降は1倍を下回っている

PER:第43期を除いて東証スタンダード市場平均15.3倍を下回っている

5. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

③ 持続的な成長と中長期的な企業価値向上の実現に向けた取り組み



■ 注意事項 ■

当資料に掲載されている業績見通し、その他の今後の予測・戦略などに関する情報は、当資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。

しかしながら実際には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、当資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社は、投資家の皆さまにとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。当資料記載の業績見通しのみに全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製または転送などを行われないうようお願いいたします。

